



建築設備技術遺産

認定第 25 号 TOTO ミュージアム所蔵の初代ユニットバスルーム

管理者:TOTO ミュージアム

所有者:TOTO ミュージアム

今から半世紀前、東京オリンピック開催へ向けてホテルニューオータニ(17階建て、客室1058室)の建設が急遽決まり、とくに工期のネックとなる浴室工事を短工期で施工する要請を大成建設株式会社より請け、この歴史的開発がスタートした。大成建設株式会社、株式会社西原衛生工業所の協力を得て、最大の課題であった短工期の命題に応えた。期せずして半世紀後の今、再び東京オリンピック開催の工期が迫る時期に、この浴室ユニットが設備技術遺産候補として登場したことには何か運命的なめぐり合わせを思わせる。

1963年7月、TOTO内に開発プロジェクトが発足した。細部の設計、使用材料の検討、衛生設備器具の選択、付属設備(照明、換気)の設計、内部総合デザインの検討など、膨大な要件の検証を昼夜問わず続け、8月に試作品が完成した。並行して、組立て確認を行って作業時間を計測するなど、詳細な検証を重ねた結果、工期短縮の実現性の確度と設計品質やデザイン性の高さも評価され、12月には採用に至ったと聞く。

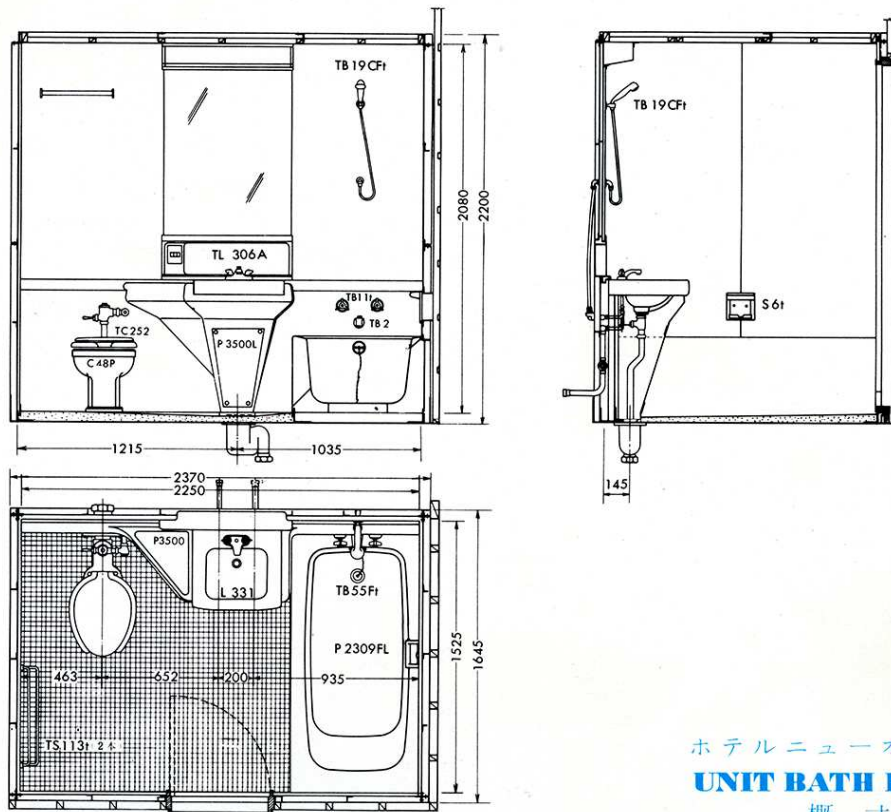
本開発製品の特長の概要は以下の通りである。

- ① 「セミキュービック方式」の開発で、予め工場を組み立てた部材を現場で施工する工法によって、在来工法では3週間～1カ月必要な工期を、わずか3～5日(組立て1日)に短縮することができたこと。
- ② 軽量化のため1958年に浴槽に実用化したFRPを採用して、従来2000kg超の浴室総重量を730kg程度まで削ることができ、この軽量化が高層建築には特に有利な条件になったこと。
- ③ FRPは浴槽だけでなく洗面カウンターにも採用され、従来にない曲線的美観とやわらかい味をもたらした。壁にはメラミン化粧板利用など各所に最適な新素材を積極的に採用し、また浴室には欠かせない防水性をステンレス製防水パンの採用で確実にしたこと。
- ④ 浴室の内側からでも部材を外すことができるようにし、組立て後のメンテナンスにも配慮、解体時には組立てた順番を逆にして取り外すことを可能とし、部材を破壊することなく容易にユニットバスの更新ができる構造としたこと。これは2015年、このユニットバスを実際に解体した機会に実地検証されている。

あらゆる面で時代を先取した本ユニットバス技術は、その後建設業界内で大きな反響をよび、さらには集合住宅ユニットバスの標準工法として量産化への大きな原動力となった。時代のピンポイントに凝縮して誕生した本技術は、その後の水回りの性能向上を大きく牽引したことは衆目の認めるところである。現在TOTOミュージアムに初代現物が移設されて一般に展示公開されており、建築設備技術遺産として認定するのに十分値するものと評価した。



初代ユニットバスルーム（解体前）



ホテルニューオータニ
UNIT BATH ROOM
 概 寸 図

初代ユニットバスルーム図面